

科 目	薬物療法				
時間数	1単位 15 時間	授業方法	講義	授業時期	2年
講師名	⑤堀川康裕				
実務経験	⑤薬剤師(医療機関)				
ねらい	薬物に関する基礎知識を、疾患に関連付けて理解し、薬物療法を受ける患者の看護に活かす。2年次の与薬の技術につなげる。				
目 標	1. 薬物とその作用について、疾患と関連づけて理解する。 2. 薬物治療に用いられる薬物と患者の看護について理解する。				
授業計画					
回	内容				
1	薬物療法の基礎知識 (1)薬はどのように作用するか (2)薬はどのように体内をめぐるか(薬物動態) (3)薬物相互作用 (4)薬物の有益性と危険性 (5)薬物の種類と取り扱い方法(劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬、覚せい剤)				
2	服薬支援と与薬 (1)薬物治療の実際:処方と調剤(処方箋、注射せん)、与薬、患者指導、薬物治療の評価、看護師の役割、 (2)医薬品の適正使用と情報の活用				
3	事例に応じた薬物治療 抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬				
4	事例に応じた薬物治療 末梢神経系に作用する薬物、中枢神経に作用する薬物				
5	事例に応じた薬物治療 循環器系に作用する薬物、呼吸器系に作用する薬物				
6	事例に応じた薬物治療 消化器系に作用する薬物、生殖器系に作用する薬物、外用薬				
7	事例に応じた薬物治療 感染症薬、物質代謝に作用する薬物				
8	まとめ				
評価方法	その時間数の3分の2以上の出席者に限り受験資格を与える。 学科終講時に行う筆記試験及び平素の学習状況を総合して評価する 60点以上を及第点とする。				
教科書	疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学:医学書院 治療薬マニュアル:医学書院				